

令和4年度学校評価計画

<p>学 校 名</p>	<p>佐賀大学教育学部附属特別支援学校</p>		
<p>1 前年度 評価結果の概要</p>	<p>◎評価項目10項目中5項目が「A」評価 学校評価アンケートによる保護者、職員の評価では、各項目の成果指標に掲げた目標値はすべて達成することができた。また、おおよそ9割の保護者から「本校に入学させてよかったと思う」という評価をいただくことができた。</p> <p>◎R3年度重点目標 ①「自立と社会参加に向けた力の育成」：新型コロナウイルス感染症対策として、行事等の規模縮小や感染症の流行状況に対応し、計画の見直し等を行いながら教育活動を実施した。従来取組方にとらわれず、新しい行事のスタイル等を、これからも工夫し、検討ながら教育活動を充実させたい。 ②「専門性向上に向けた研究・研修の充実」：令和4年1月22日に第20回研究発表会をオンラインで実施し、県内外からの参加者に、取組や研究について発信することができた。また、校内でも研究をとおり、年間指導計画で授業の位置を確認し、単元計画で教師間の共通理解を深めることができた。 今後更に大学と連携し、関係教授との共同研究や研修をとおりながら専門性を高めていく。 ③「センター的機能および関係機関との連携」：四附属学校園で定期的なコーディネーター会を実施し、情報交換を行った。次年度は代用附属の小学校や中学校との交流を積極的に行い、特別支援教育のセンター的機能の充実をより図りたい。 高等部では関係機関と連携し、卒業後に向け就業施設体験を計画的に実施し、希望進路の実現に努めた。また、小・中・高等部の該当学年では、市町との関係課や相談機関との支援会議を開催し、支援の充実と共通理解を深めた。</p> <p>◎その他 ①学習用パソコンや電子黒板の活用は学習の中で日常的になってきている。今後も効果的なICT教育の研究をすすめ、実践していく。 ②時間外勤務についての申請制度を一年間おとして実施したことで、繁忙期の傾向等が見えてきた。行事見直しや変形労働時間を効率よく設定しながら、ワーク・ライフバランスを意識した働き方の推進と時間外勤務時間の削減を継続させる。</p>		
<p>2 学校教育目標</p>	<p>児童生徒の現在及び将来の身辺生活・社会生活並びに職業生活における適応能力を育成する。</p>		
<p>3 本年度の重点目標</p>	<p>『児童生徒の可能性を引き出す学校作り』 ①創意ある教育活動の実践 ②専門性向上に向けた研究・研修の充実 ③センター的機能および関係機関との連携</p>		
<p>4 重点取組内容・成果指標</p>			
<p>評価項目</p>	<p>取組内容</p>	<p>成果指標(数値目標)</p>	<p>具体的取組</p>
<p>(1)円滑な学校運営</p>	<p>○児童生徒、保護者や教職員が、互いを『認め合い 助け合い 高め合う』学校づくり</p> <p>○ワーク・ライフバランスを意識した働き方の推進と時間外勤務時間の削減</p> <p>○開かれた学校づくり</p>	<p>○将来の社会生活や次の学部・学年につなぐ教育が、連携協力しながら取り組まれていると思う職員が80%以上</p> <p>○本校に通わせてよかったと思う保護者が80%以上</p> <p>○時間外勤務時間…月平均15時間以下</p> <p>○年休取得日数…年間10日以上全員達成</p> <p>○学校ホームページや学校だよりなどで、学校行事や児童生徒の様子等を保護者や地域に発信できていると思う職員が80%以上</p> <p>○学校は、地域や関係機関と連携を十分にとっていると思う保護者80%以上</p>	<p>○会議全般に記録者を立て、記録者の役割として、出欠確認、記録、欠席者への記録の配布を明示するなどして改善を図る。</p> <p>○学部主事とコーディネーター、生徒指導主事により、対象児童生徒の状況や議事内容等について、事前に調整を図る。</p> <p>○計画的な会議、研修の設定 → 終了時刻の明確化</p> <p>○週1回の定時退勤日の設定 → 定時退勤の実現</p> <p>○長期休業期間における完全定時退勤実現、年休取得奨励</p> <p>○協働体勢の構築および業務の効率化</p> <p>○ホームページについては、現在、改善、リニューアルに向けて業者との協議を行っている。</p> <p>○相互の学校で、今後も交流のスタイルを模索し、さらに交流を深める。</p> <p>○取組を継続するとともに、より学習効果の高い、地域との連携した取組を推進する。</p>
<p>(2)研修・研究</p>	<p>○校内研究の推進</p>	<p>○3か年計画の1年目として新規研究に取り組む中で、先行研究の分析や授業実践への取組を通して、児童生徒の思考力・判断力・表現力を育成する指導・支援ができるようになってきたと思う職員70%</p>	<p>○過年度分の単元計画における「思考・判断・表現」の評価実績の分析や、「思考力・判断力・表現力」を育成に関する研究の先進校(小学校及び特別支援学校)の取組の分析等を踏まえ、本校の評価規準や評価基準の方針について検討を深める。</p> <p>○ICTの活用も含めた児童生徒の資質・能力を育成するのに有効な指導・支援について事例を集積していく。</p>
<p>(3)センター的機能の充実</p>	<p>○効果的な地域支援に向けた特別支援学校のセンター的機能の充実</p>	<p>○四附属学校園コーディネーター会を、今年度4回、開催する。</p> <p>○依頼を受けた巡回相談を実施する。</p>	<p>○四附属学校園コーディネーター会において、事例検討会を実施し、特別支援教育についての理解啓発や情報共有を図る。</p> <p>○定期的に、四附属学校園と連絡を取り、巡回相談を依頼しやすい体制にする。</p>
<p>(4)教育実習</p>	<p>○教育実習の充実</p>	<p>○佐賀大学、西九州大学と連携し、教師としての高い志と豊かな人間性をもった教員養成に全職員で取り組む。</p> <p>○充実した実習になったと思う学生が80%以上</p>	<p>○授業実践や授業研究会を通して、児童生徒の特性を踏まえた指導・支援やチーム・ティーチングに関する資質の向上に努める。</p> <p>○事前指導・授業参観を行い、実習前からの意識付けを図る。</p> <p>実地授業や授業研究会の実施の仕方や実習に関する手引きを、必要に応じて再検討する。</p>
<p>(5)学力の向上</p>	<p>○児童生徒が主体的に学び、一人ひとりの可能性を引き出す教育の実践</p>	<p>○児童生徒の実態や学びの履歴及び興味・関心などの一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援を行うことができるようになったと思う職員80%</p>	<p>○学びの履歴による実態把握等を踏まえた年間指導計画や単元計画の立案を複数の教師で協働しながら行う。</p> <p>○実態を踏まえたICTの積極的な活用を図る。</p>
<p>(6)いじめの問題への対応</p>	<p>○いじめ・体罰の未然防止、早期発見、早期対応体制の充実</p>	<p>○いじめ・体罰防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員90%以上</p> <p>○学校(教師)の対応は子どもをよく理解し、人権を尊重した指導・支援ができていると思う保護者80%以上</p>	<p>○9月と1月に「いじめに関するアンケート」を全児童生徒・保護者対象に行い、迅速に対応する。</p> <p>○児童生徒の様子を把握し、気になる事案については校内支援検討委員会や職員会議で共通理解を行い、全職員で対応する。</p>
<p>(7)進路指導</p>	<p>○児童生徒の個性や思いを大切に、社会生活および職業生活で生きる力を育む教育の充実</p>	<p>○生徒・保護者が希望する進路先、就業施設体験先の決定80%以上を目指す。</p>	<p>○生徒及び保護者の進路希望に基づいて、担任との情報共有を行い、就業・施設体験先や卒業後の進路先の決定を行う。</p> <p>○進路研修や進路講話を行い、生徒及び保護者、職員に卒業後の生活を学ぶ機会を作る。</p>
<p>(8)防災・危機管理体制の充実</p>	<p>○生命・健康を守るため、危機管理意識を高める</p>	<p>○防災・防犯に対する意識を高め、緊急時に安全かつ適切な行動が取れるよう、マニュアルを見直し、訓練を年3回、研修を年2回行う。</p> <p>○学校は清掃や安全点検が行き届き、安全面に配慮がなされていると思う保護者80%以上</p>	<p>○火災避難訓練、地震避難訓練、不審者対応避難訓練、引き渡し訓練を実施し、教職員・児童生徒・保護者の防災意識を高め、緊急事態に安全かつ適切な対応がとれるよう日頃より訓練や研修を行う。</p> <p>・定期的に(月1回)校内安全点検を実施する。</p>